

i-Construction 2.0 (建設業の生産性向上) さらなる建設現場の
への取組 オートメーション化に向けて



日本基礎技術株式会社
Japan Foundation Engineering Co., Ltd.

 **日本基礎技術株式会社**
Japan Foundation Engineering Co., Ltd.

東京本社

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1丁目1番12号
NKG東京ビル
Tel:03-5365-2500 Fax:03-5365-2521

本社

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目9番14号
NKGビル
Tel:06-6351-5621 Fax:06-6355-2077

www.jafec.co.jp



2026.3印刷

人と環境の共生をめざし

建設基礎技術で

豊かな社会創りに貢献する

わたしたちは、常に視点を広く深く持ち
積極的に技術の改善・改良を続けます。

未来を創るのはわたしたち。

より良き社会のために、

日々たゆまぬ努力をいたします。



調査・設計・施工・維持管理での総合技術力をもつ
建設基礎工事の専門技術者集団として
「確かな技術と施工」を半世紀以上にわたり提供

ごあいさつ

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
当社は創業以来、建設基礎工事の様々な分野において
ものづくりの施工技術を提供する専門業者として
高度かつ豊富な技術ノウハウを備えた現場力と独自技術で
社会に貢献してまいりました。
建設業界を取り巻く経営環境が急激に変化する中、
「削孔」と「注入」という当社の基本技術を更に磨くとともに
「環境」「防災」「補修・保全」を軸とした応用と
アライアンスを含めた新技術の構築を行い、
多様化・高度化するニーズに調査・技術・営業・工事部門の
連携で総合力を発揮し、より一層
「社会に信頼され 貢献できる会社」を目指してまいります。



代表取締役社長

中原 毅

Iwao Nakahara



Best Solution of The Earth

新しい社会基盤と 環境保全への ベスト・ソリューション

社会の持続的発展に不可欠なインフラの整備・維持工事。

安心・安全・豊かな暮らしのための防災・減災工事、次の世代のための環境問題対策まで、調査・設計・技術開発・施工、そして維持管理の総合的なソリューションをご提供いたします。

社会基盤維持・強靱化

当社が蓄積・開発した様々な建設基礎技術により、人々の暮らしを支えるインフラの維持整備・強靱化を行います。

防災・減災対策

地震や台風などによる地盤の液状化、斜面崩壊、洪水や土砂くずれなどの自然災害に対し、当社は多目的な防災技術・新工法の開発をしています。

環境・汚染対策

有害物質による土壌や地下水の汚染という負の遺産を後世に残さないよう汚染された土壌の修復や地盤環境の再生に取り組んでいます。

〇〇〇 地盤改良

- ダブルパッカ工法
- 二重管ストレーナ工法
- 超多点注入工法 (DCI 多点注入工法)
- 高圧噴射攪拌工法
- 深層混合処理工法 (CDM工法・GIコラム工法・KS-S・MIX工法)
- Eight工法

〇〇 アンカー

- 永久アンカー工法
- 仮設アンカー工法
- 高被圧水下アンカー工法
- 既設アンカー緊張力モニタリング

〇〇〇 岩盤グラウチング

- ダムグラウチング
- 連続配合切替工法
- ロッドライナー工法
- 動的グラウチング工法
- グラウチング管理システム
- 既設トンネル空洞充填グラウチング

〇〇 基礎杭

- BG工法
- 大口径岩盤削孔工法
- 地中障害物撤去工法
- 先行削孔(プレボーリング)工法

〇〇〇 斜面安定

- 吹付法棒工法
- 地山補強土工法
- エコ・パワーネット工法
- クロノパネル・ヤマノフレーム

〇 地すべり対策

- 地すべり抑止杭工法
- 集排水ボーリング工法
- RC型集水井シールド

〇〇 汚染対策

- 土壌汚染状況調査
- 汚染対策工事
- Jポケットパイル工法

〇〇〇 自然復元

- 植生基材吹付工法
- 竹繊維法面緑化工法
- 膨軟化チップ吹付工法
- 階段植生工法

〇 トンネル補助

- 芯材補強アンブレラ工法 (トレヴィ工法)
- THパイプルーフ工法

〇〇 ボーリング応用

- マイクロパイル工法
- 高速ノンコアボーリング技術

〇〇〇 建設コンサルタント

- 地すべり対策工設計
- ダム基礎地盤解析

〇〇〇 地質調査

- 各種物理探査
- 地質土質調査
- 原位置試験
- 室内土質試験
- 地質土質総合解析

〇〇〇 建設発生土リサイクル技術

- 回転式破碎混合法

〇〇 自動削孔技術

- 二重管自動削孔機 A-RPD
- 小口径自動削孔機 ABM-10

山・川・海・都市 — 多彩な場所に日本基礎技術

インフラ整備・強靱化のための基礎工事にはじまり、
安心・安全・豊かな暮らしのための防災・減災工事、国土の持続的発展のための環境対策等
これらすべてにおいて調査・設計から施工及び維持管理までをトータルに行っています。



八ッ場ダム・群馬県吾妻郡長野原町：洪水調節、水道及び工業用水の確保並びに発電を目的とする建設中の多目的ダムです。当社は法面保護工事を施工しています。



徳富ダム・北海道樺戸郡新十津川町：平成25年に完成した、洪水調節・かんがい用水・水道用水の供給を目的とした多目的ダムです。当社はダムグラウチング技術で完成に寄与しました。



排水機場・宮城県石巻市：震災復興に伴う土地利用改変で新設する排水機場の地盤改良工事を施工しました。



大涌沢地域・神奈川県箱根町仙石原：年間2000万人が訪れる観光地・箱根大涌谷で、地すべり対策として、アンカー工事をを行い観光資源を守っています。



環状2号線 新虎通り・東京都港区新橋：新虎通りの整備工事の一環で、都営地下鉄浅草線との地下交差点で地下鉄線を防護するためにジェットグラウト工法を施工しました。



金沢港埠頭・石川県金沢市：岸壁の吸出し防止のために超多点注入工法を施工しました。



道央圏連絡道路・北海道南幌町：道路新設に際し、盛土部基礎の地盤改良工を施工しました。



汐留交差点・東京都港区：再開発に伴う地中障害物撤去で、歩道橋下を低空頭仕様のBG機で施工しました。



埋立造成地・愛媛県四国中央市：海上を埋立てる造成工事で、遮水鋼矢板を施工しました。



京都府野田川大宮第14トンネル・山陰近畿自動車道：道路トンネルの掘削前の調査において地山の性状を確認するため水圧ハンマーによる高速ボーリングを実施しました。



ビル新築工事・東京都新宿区：ビル新築工事で、建物躯体安定のための永久アンカーを施工しました。



大蘇ダム・熊本県産山村：農業用ダム貯水池からの地山浸透を抑制するためにコンクリート吹付を施工しました。



新東名高速・愛知県岡崎市：新設高速道路で、切土斜面の法面保護工事を施工しました。



上信越道・新潟県妙高市：高速道路4車線化に伴う新設橋脚基礎構築のために、薬液注入工事を施工しました。

ICT・機械化施工で 人的作業の軽減、安全性向上の実現

二重管自動削孔機 A-RPD

NETIS登録 CB-240033-A

1. 削孔作業の全ての操作を自動化
2. 地質状況に応じた制御削孔を実現
3. 熟練オペレータレベルの削孔能率

①削孔管理装置

- 自動削孔プログラムにより様々な地質に対して削孔することが可能です。
- 管理操作盤はタッチパネル式で、リアルタイムに施工時のデータをディスプレイに表示し、削孔作業のサポートを行います。
- 操作盤のボタンで、削孔作業を目標深度まで連続して自動で行うことができます。削孔時のデータは本体に記録されており、施工後に削孔データ記録として出力できます。

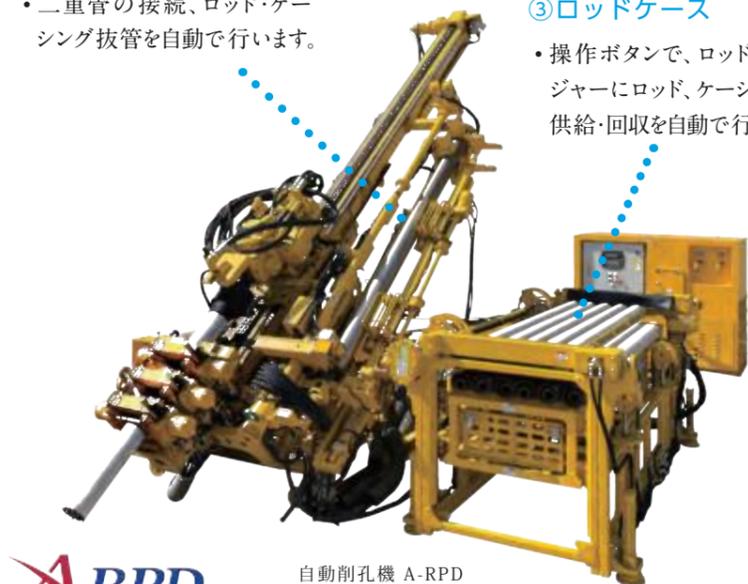


②ロッドチェンジャー

- 二重管の接続、ロッド・ケーシング抜管を自動で行います。

③ロッドケース

- 操作ボタンで、ロッドチェンジャーにロッド、ケーシングの供給・回収を自動で行います。

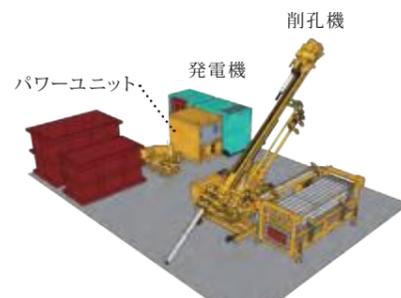


A-RPD
Automatic Rotary Percussion Drill

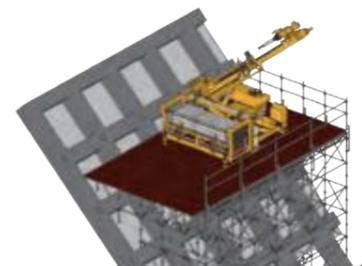
自動削孔機 A-RPD



●機械配置例



●適用事例 (グラウンドアンカー工事)





堤体アバット上での施工

マシン遠隔管理で 省人化、安全性向上の実現

小口径自動削孔機 ABM-10

NETIS登録 QS-250001-A

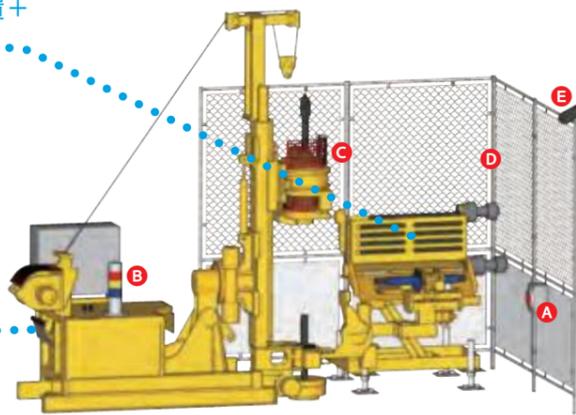
1. ボーリング作業の全ての操作を自動化
2. 地質状況に応じた自動削孔を実現
3. 熟練オペレータと同じレベルの削孔能率

② ロッドハンドリング装置+ ロッド補給装置

- 自動でロッド補給とロッド回収が可能で、削孔中は削孔機周辺が無人となり、作業環境改善と安全性が向上しました。

③ 巻上げウインチ

- 長尺ロッドの引上げが可能で、巻上ウインチを装備。



① 削孔管理システム

- 遠隔監視・操作が可能で、オペレーターは操作モニターに目標深度等を入力し、「削孔開始」ボタンを押すだけで自動削孔します。
- 経験の浅いオペレーターでも安全性を確保しながら削孔が可能です。
- 削孔データから削孔日報や集計表を自動作成します。

④ 安全装置

- ① 機体には緊急に停止させる非常停止ボタンを整備
- ② 稼働状態(正常運転・警戒・停止)を示す積層情報表示灯を装備
- ③ 巻込まれ防止対策として、ドリルヘッド回転部にカバーを装備
- ④ 立入禁止措置としてフェンスをロッドハンドリング可動域周辺に設置
- ⑤ 削孔状況を映し出す監視カメラを装備

⑤ 給水装置(水量計)

- 削孔水の流量・圧力を制御し、異常時は自動で回避、復旧します。

『インフラ(注入)分野におけるDXの推進』を踏まえたICT・CIMを取入れたグラウチング情報の可視化

進化するリアルタイム4D可視化システム

Ground-4D EXT (拡張機能版)

NETIS登録 QS-240015-A

地盤改良の施工状況を見える化する「Ground-4D」の機能を拡張した「Ground-4D EXT」を開発しました。新システムを使用することで、更なる情報の共有や現場施工管理の負担を軽減することが可能となります。

① 情報共有機能

現場の仕様書、図面、工事写真などを目的・内容別にクラウドサーバーへ保存し、工事関係者がいつでもアクセスすることが可能です。



② 施工支援機能

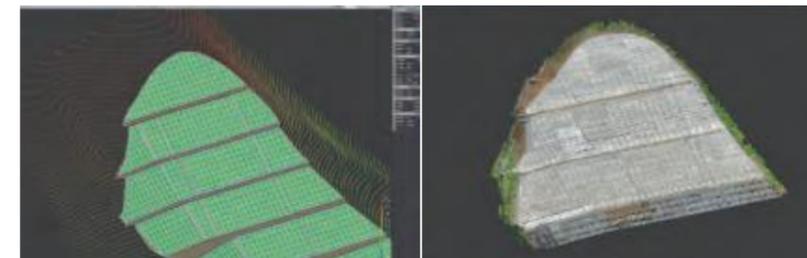
オンラインでの立会検査や3次元モデルに施工情報(実績・進捗)をリアルタイムに重ねる4D表示。目的に応じた解析図表の作成やグラウトの追加注入自動判断の機能も実装しています。

ICT活用工事への取組 (ICT法面工)

ドローンによるのり面を撮影



写真から3次元モデルを作成



3次元設計データ

3次元出来形データ



出来形計測

ICT活用工事への対応に向けて、「3次元設計データ作成」や「3次元出来形情報等による施工管理」に関する取組を行っております。UAV測量によって得られる3次元データから出来形を管理することによって、出来形計測の省力化・生産性向上に繋がります。

BG工法

BG7からBG30までの大小機種を保有しており、低騒音・低振動という特性で狭隘・空頭制限等の制約の多い環境にも柔軟に対応できます。

オーガーからハンマーまでの各種ツールを交換すれば、一般土砂・砂礫・岩盤等の削孔が可能です。



自走式・360度回転・単独施工可能

高架橋下、鉄道際、狭い建築現場、道路脇、複数台施工等の特殊な状況に対応します。



高さ制限がある状況下での活躍

高架橋下という高さ制限がある場所でBGを低空頭仕様にして施工しました。



柔軟で360度回転可能機体

360度回転式でコンパクトな機能性を持ち、限られた区域での施工ができます。



パワフルな油圧式ツール

ハンマーグラブで様々な支障物を強力に掴んで撤去することや杭を打設することも可能です。



狭い場所での複数台工事に対応

合番クレーンなしで単独使用ができるため、狭い場所での複数台施工が可能です。

コンパクトでもパワフルです

空頭制限下で鉄筋コンクリート・杭・H型鋼等の支障物の撤去を行います。機械高4.5mに改良し、地下躯体内部での作業を可能にしました。

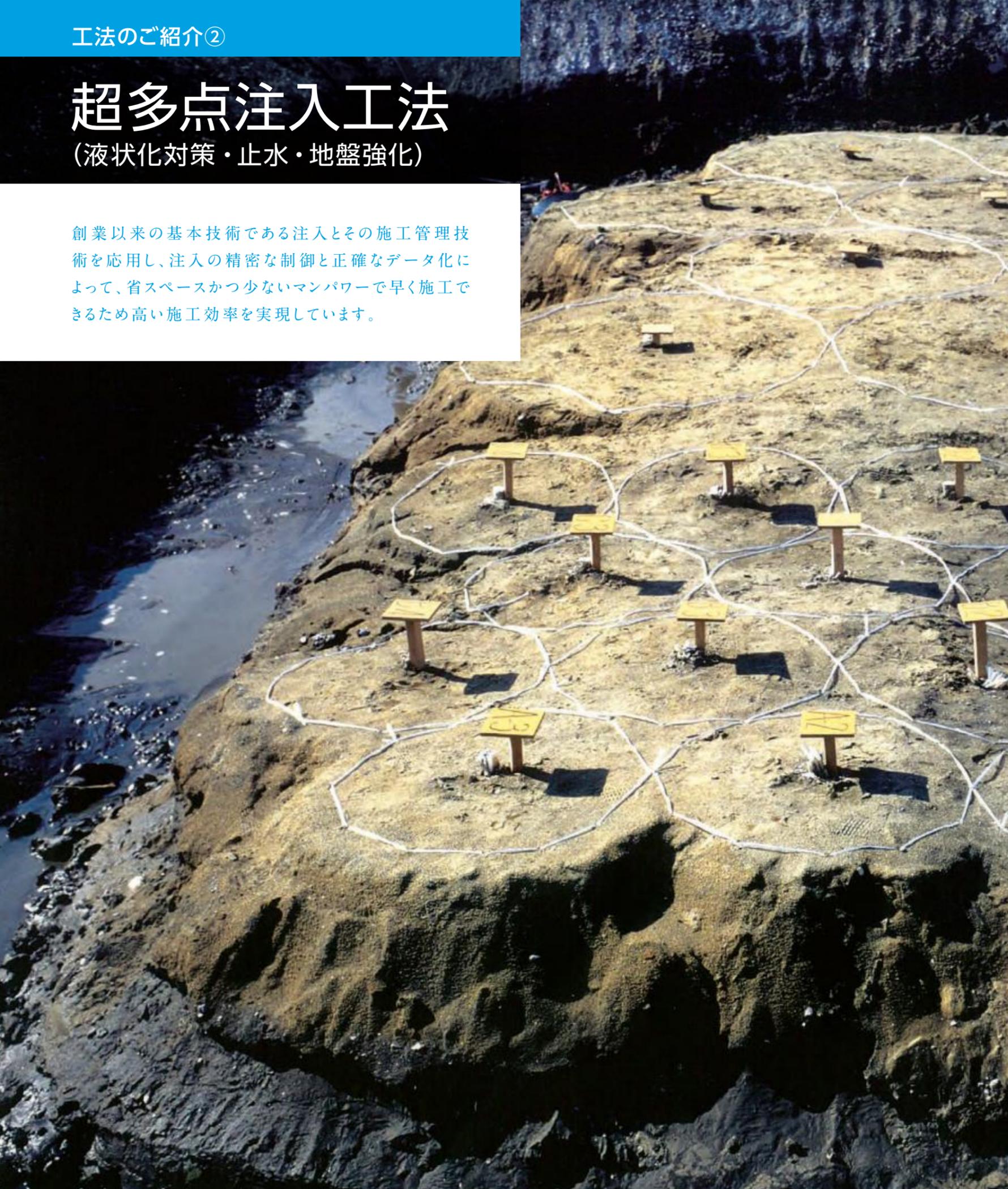


BG-20(低空仕様)

超多点注入工法

(液状化対策・止水・地盤強化)

創業以来の基本技術である注入とその施工管理技術を応用し、注入の精密な制御と正確なデータ化によって、省スペースかつ少ないマンパワーで早く施工できるため高い施工効率を実現しています。



グラウチング技術の進化形 (超多点注入工法)

超多点注入工法は「同時」に「多点」で立体的に地盤を固める薬液を注入することにより、素早く・地盤に優しく施工できるため、周辺の構造物に影響を与えず「迅速」に液状化対策などの地盤の改良ができます。



超多点注入工法使用機械例

小型高性能ポンプ(32台1セット)は電磁流量計で個別に注入制御されデータを記録監視しています。



当社開発・薬液注入工法の大幅な進化

当社開発の機械システムを使うことで従来の薬液注入工法とくらべ地盤変位の大幅な抑制・制御が可能となりました。



127,100㎡をわずか6ヶ月で施工

工期短縮という課題条件に対し当社の超多点注入工法が採択され、合理的な施工効率が高く評価されました。



震災後の液状化対策工事追跡調査

仙台市塩釜港での超多点注入工法施工後の追跡調査。地震後の変状なく健全な地盤を確認できました。

究極の薬液注入工法 (DCI多点注入工法)

基礎地盤や軌道の隆起抑制の注入工法です。対象地盤に合わせた注入速度を決定し、変位データを連動した自動制御注入システムにより変位を抑制しながら注入することが可能です。



Eight工法



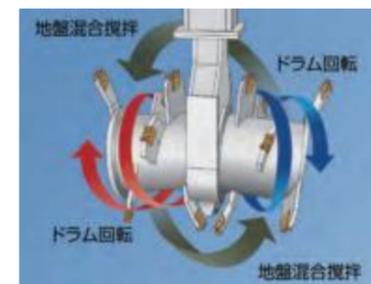
建設技術証明 建審証第2203号
NETIS登録 KT-230182-A

地盤強化・液状化防止対策として地盤改良の需要が高まっている中、当社独自の工法を開発しました。ICT技術を活用し、自動化施工で高品質な改良を実現します。



軟弱地盤から硬質砂質土まで改良可能

2基の高油圧モータを内蔵した攪拌装置を左右相対に回転させ、原地盤とスラリー化した改良材とを攪拌混合して、軟弱地盤も化学的に固化処理し、高品質な改良を実現する中層混合処理工法です。



8(Eight)の字のように動く攪拌装置

左右の高油圧モータを相対に回転させ、原位置土を上下左右外側内側へと動かし効率よく混合攪拌を行います。

自動制御装置

自動制御により、オペレーターの技量に左右されない高品質で鉛直性の高い柱状改良体の築造が可能となります。

オートパイロット機能

タブレットのボタンを1回押すだけで設定された深度まで施工を行うことが可能です。

着底管理

専用の制御装置で、着底層付近での貫入速度及び回転圧力の変化を確認することでN値50を超える軟岩に精度よく着底管理が可能です。

ICTを活用した施工システム

各種データをリアルタイムに監視・管理することができる施工管理システムと、「貫入・引抜」「スラリーの吐出量」「ブーム鉛直性」を自動で制御することができる自動制御システムを搭載し、技量に左右されない高品質な改良を実現します。



マイクロパイル工法

地震国である我が国で、防災・減災対策としての構造物の耐震補強や地盤補強は大切な取り組みです。私たちは、これまでに培ったボーリング技術を深化させたマイクロパイル工法により様々な問題を解決していきます。



マイクロパイル工法の特長

機動性のよいコンパクトな機械・プラント設備で、空頭制限下や狭隘な場所、山岳傾斜地や地下空間等の厳しい条件下での施工に威力を発揮します。また、地盤条件に応じた削孔方式を採用することで、複雑な土質条件での杭打ちを低振動・低騒音で施工。10～30度の斜杭も可能です。



厳しい施工制約を克服

変電所の補強工事で、変電設備を稼働させながら空頭制限2m以下の条件下で杭の施工を行いました。



施工機械の改良

左記の施工条件に対応するために機械の改良を行い、自社工場を実証試験を行いました。

回転式破砕混合工法

(あらゆる建設発生土の有効利用)

災害や建設工事で発生する土砂は捨てれば廃棄物ですが、粒度を調整し改質することにより材料に生まれ変わります。幅広い建設発生土を有効利用できるため、事業コストの縮減、リサイクル性の向上、環境負荷の低減が期待できます。



回転式破砕混合工法とは

回転式破砕混合工法は、高含水比の粘性土や礫混じりの砂質土を混合して、均質で締固まりやすい土砂へ改良する技術です。一つの機構で破砕と混合を同時に行う事が出来るため、効率的な土質改良と幅広い建設発生土の有効利用に適しています。



回転式破砕混合機

円筒状の本体内部で、複数本のインパクトチェーンが高速回転し、破砕(解砕)と混合を同時に行う事が可能です。



プラント全景

最大3種類の土質材料を、個別に土砂供給機から計量ベルコンを経由して回転式破砕混合機本体に投入します。添加材供給も可能です。

斜面防災技術

(法面保護・アンカー)

地震や降雨による土砂災害を防ぎ、周囲の環境との調和を取れるよう施工するには様々なノウハウが必要です。当社では状況に応じて最適なアンカー工法を提案施工し我が国でのアンカー先駆者としての実歴を残しております。



山でも街でも活躍する斜面防災工事

ダムや道路工事に伴う斜面安定化や地すべり対策をはじめ、都市再開発に伴う掘削土留、大規模高層ビルの転倒防止、地下水圧による地下躯体構造物の浮き上がり防止など、山や都市特有の様々な課題を技術と施工で解決します。



景観と自然復元に配慮した法枠工法

自然還元する竹笹類の繊維やリサイクル材を利用した緑化や、維持管理を考慮した設計、計測管理もおこなっています。



都市の地下をアンカーで守る

ビル新築工事、地下18.5m地下躯体を構築するため3段544本のアンカーで大きな土圧を受止め防護しています。



ダムの法面をアンカーと受圧板で固定

地表の受圧板・法枠等の受圧構造物と地中のアンカー体を鋼線で結び、緊張力を与えることで不安定化した斜面を保護する工法です。



長大斜面から高速道路を守る

道路の安全を守るため、掘削により出現した長大な斜面を法枠・ネット・アンカーで安定化させます。

環境との調和を保つために

高強度鋼線ネットを地山補強材で法面に固定することで強固な法面補強を図り、さらに施工面全体を緑化できるコンクリート構造物に依らない対策・施工が可能です。



地盤改良技術

限られた国土を有効にかつ安全に利用するために欠かせないのが地盤改良です。耐震性の向上・液状化防止・構造物防護など施工条件の厳しい工事が増える昨今、当社は小型機械で施工する高圧噴射攪拌工法から大型機械で施工する機械攪拌工法まで、様々な条件に合わせた地盤改良技術を提供しています。



地盤改良工法のラインナップ

様々な構造物を支える基礎改良から防災・減災のための耐震補強工事まで、高圧噴射攪拌工法と深層混合処理工法で対応します。



復興を支える土地を造る

盛土による地盤沈下を防止するために深層混合処理工法 (CDM工法) により地盤を改良しています。



条件難易度の高い壁を埋める

連続地中壁工法の中央部分を高圧噴射攪拌工法のひとつであるSUPERJET工法で施工した例です。



補強対策試験施工の開削写真

本施工に先立ち試験。設計通りの改良径 (φ3500～φ5000) で改良体がラップしているかを確認します。



コンパクトな深層混合処理工法

GIコラム工法は、コンパクトで安定した施工機で大型機並みの改良深度や改良径を可能としました。

BG機によるCDM工法

万能型大口径削孔機械であるBG機に深層混合処理工法 (CDM工法) を組合せました。



技術紹介③

新素材による法面緑化

新開発の再生プラスチックを活用した受圧板や生分解性資材を植生基礎とした植生導入により、環境と調和した斜面安定のための強靱な法面保護工です。



軽くて丈夫なクロノパネル

再生プラスチックを配合した鉄筋挿入工用の独立受圧板で、20kN～80kNの荷重導入に対応可能です。



環境に優しいヤマノフレーム

植物の群落形成および拡大を阻害しないように、長期間を経て生分解する素材を使用しています。

技術紹介④

地質調査・設計

計画設計時の地盤情報と、実際の地盤の整合性を厳しくチェックし、地表地質踏査からグラウチング試験まで、様々な調査及び試験に対応します。



地質土質調査

機械ボーリングで地質試料を採取し肉眼で観察、透水試験、物理検層などを実施し、地盤の透水性、物理・力学特性などを明らかにします。



確かな施工を支える地質調査

施工中の目的構造物の品質や出来形を確認するために、調査ボーリングを行い試験やコア確認で得られた情報を施工に反映させます。

技術紹介⑤

維持修繕技術

人々の暮らしを支えるインフラを、長く安心・安全に使っていくために、また、効率的な保全・更新を行っていくための技術を提供していきます。



インフラの持続的な保全・管理と防災・減災への取組

道路・鉄道のトンネルや橋に代表される様々なインフラストック。老朽化や自然災害に起因するリスクを軽減し強靱化するために、これまでに培った「ボーリング」と「グラウチング」の技術を応用し、各種の補修工事に取り組んでいます。



国道トンネルの剥落防止

老朽化した国道トンネルを、安全に長く使うための補修工事を行っています。



水路トンネルの裏込注入

老朽化した水路トンネルを、覆工背面の空洞はグラウト充填、内空表面は断面補修等で長寿命化を図っています。

総合テクニカルセンター



約46,000㎡の敷地に管理棟、整備棟、整備場、技能訓練・実験場を配置



3つの機能と役割

研究・実験施設と技能者・技術者の研修施設としての機能を兼ね備えた「総合テクニカルセンター」は人材育成の拠点としての役割を担っています。

機械センター機能

機械器具の整備に加え、現場での最大負荷等を実証し、万全な状態で出庫します。

実験施設機能

機械器具の改良や、市場のニーズを先取りした新技術の開発を積極的に進めます。

技術訓練センター機能

技能者の業種転換支援や、技能向上のための研修を行い、担い手の継続確保に努めます。

工事例



ニューオリンズ堤防嵩上に伴う地盤改良工事(米国・ルイジアナ州)

2005年の超大型ハリケーン「カトリーナ」災害の洪水再発対策。長期にわたる工事の中で、1.7kmに及ぶ堤防を大型クレーン仕様の地盤改良機で効率よく嵩上げ施工しました。



アンダーパス工事に伴う止水壁築造工事(米国・カルフォルニア州)

鉄道・道路の立体交差道路工事のため、連続止水壁築造を行いました。隣接する鉄道・道路を供用しながらも、全工期無事故で完工しました。

商号 日本基礎技術株式会社
 JAP AN FOUNDATION ENGINEERING CO.,LTD.
 代表者 中原 巖
 本社 本社：大阪府大阪市北区天満1丁目9番14号
 東京本社：東京都渋谷区幡ヶ谷1丁目1番12号
 設立 昭和28年11月5日
 資本金 5,907百万円

昭和28年、大阪府で創業以来、地盤をあらゆる角度から調査・分析しボーリング・グラウチングの基本技術とその応用で、豊かな社会創りに貢献しています。

- 昭和28年11月 ● 1953年 大阪市北区松ヶ枝町に溜池・干拓・ダム・トンネル等のボーリング、グラウチング工事を目的とする日本グラウト工業株式会社を、資本金100万円をもって設立。
- 昭和42年 1月 ● 1967年 東京支店および九州支店を設置。
- 昭和45年10月 ● 1970年 札幌支店を設置。
- 昭和47年 3月 ● 1972年 大阪市北区松ヶ枝町に本社社屋を建設。
- 昭和50年 4月 ● 1975年 東北支店を設置。
- 昭和50年 7月 ● 1975年 東京都渋谷区渋谷に東京本社を設置。
- 昭和51年 8月 ● 1976年 大阪支店(現関西支店)を設置。
- 昭和55年12月 ● 1980年 名古屋支店(現中部支店)を設置。
- 昭和58年 1月 ● 1983年 東京都渋谷区桜丘町に東京本社社屋を取得。
- 昭和60年 4月 ● 1985年 企業基盤の強化を図る目的で、新技術開発株式会社と合併。日本基礎技術株式会社に商号変更。
- 昭和63年11月 ● 1988年 大阪証券取引所市場第二部に上場。
- 平成元年10月 ● 1989年 兵庫県宍粟市山崎町に研修センターを建設。
- 平成 5年10月 ● 1993年 東京証券取引所市場第二部に上場。
- 平成 7年 9月 ● 1995年 東京証券取引所および大阪証券取引所市場第一部に指定替え。
- 平成17年 4月 ● 2005年 東京支社および首都圏支店を設置。
- 平成18年 5月 ● 2006年 経営諮問組織として、コンプライアンス委員会を設置。
- 平成19年 1月 ● 2007年 地盤改良工事の受注・施工の拡大を目指し、株式会社オーケーソイルと業務提携。
- 平成19年11月 ● 2007年 トレヴィグループ(イタリア国)と技術導入・共同土木施工等に関する基本包括契約を締結。
- 平成21年 4月 ● 2009年 東京支社を札幌支店・東北支店・首都圏支店の統括部店とする。
- 平成21年10月 ● 2009年 JAFEC USA, Inc. 設立。
- 平成22年 4月 ● 2010年 株式会社オーケーソイル子会社化。
- 平成26年 7月 ● 2014年 東京都渋谷区幡ヶ谷に東京本社社屋を取得、東京本社・東京支社・首都圏支店を移転。
- 平成26年12月 ● 2014年 大阪市北区天満に本社社屋を取得。本社・関西支店を移転。
- 平成30年 4月 ● 2018年 群馬県明和町に総合テクニカルセンターを開設。
- 令和 4年 4月 ● 2022年 市場区分見直しに伴い、東京証券取引所市場第一部をスタンダード市場へ移行。

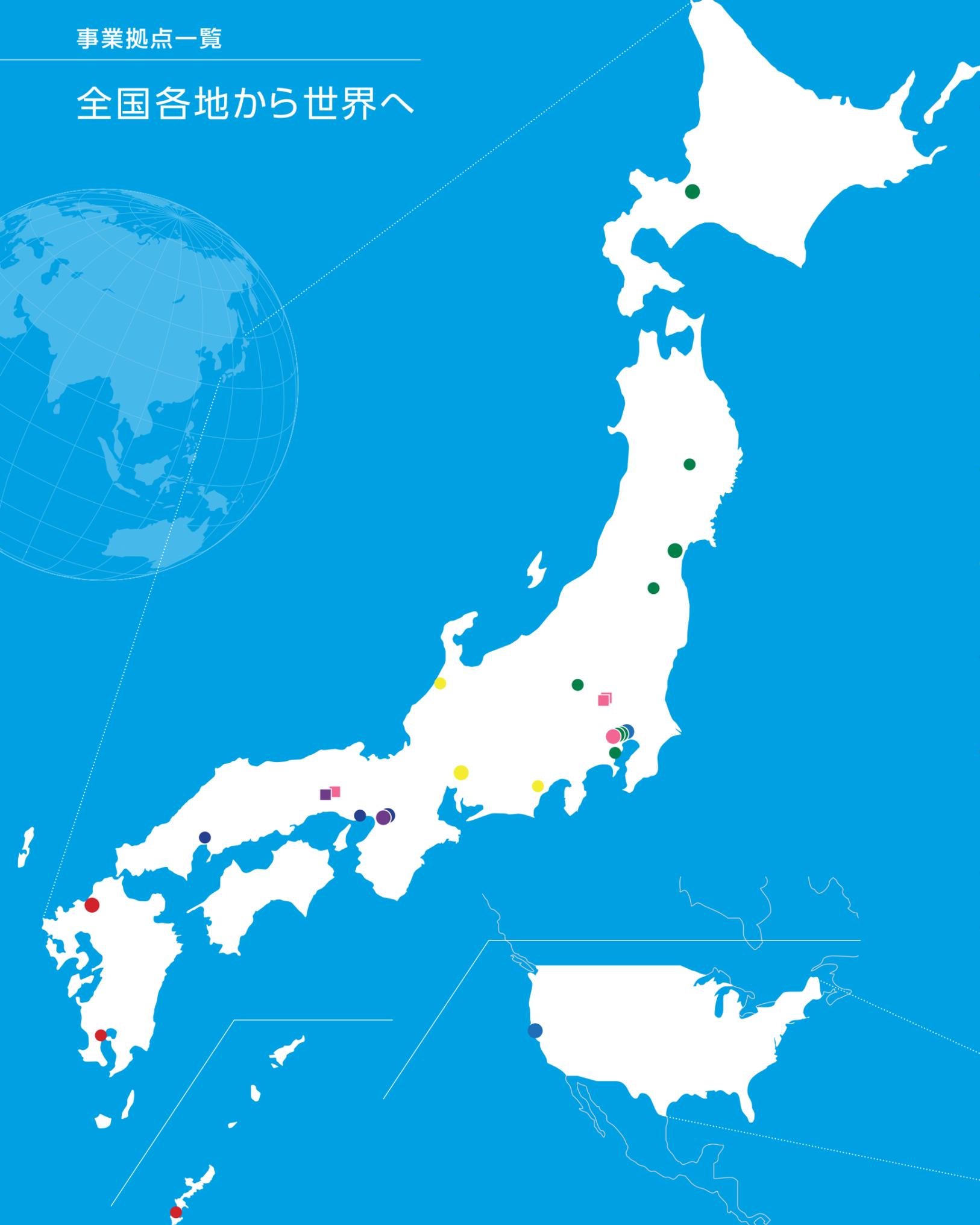
海外への展開

当社はグループ会社を含め海外工事へと積極的な展開を図っています。米国内および東南アジア諸国を対象とし、米国においては子会社として地盤改良を専門とするJAFEC USA, Inc.を設立、同じく子会社として日本国内の地盤改良専門業・株式会社オーケーソイルの協力のもとグループ一丸となって事業を進めております。



関連会社
 JAFEC USA, Inc.
 株式会社オーケーソイル

全国各地から世界へ



● 本社 〒530-0043 大阪府大阪市北区天満1丁目9番14号 NKGビル Tel.06-6351-5621 Fax.06-6355-2077
 ■ 研修センター 〒671-2515 兵庫県宍粟市山崎町五十波字山陰1047番6 Tel.0790-62-8485 Fax.0790-62-8761

● 東京本社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1丁目1番12号 NKG東京ビル Tel.03-5365-2500 Fax.03-5365-2521
 ■ 総合テクニカルセンター 〒370-0718 群馬県邑楽郡明和町大輪505 Tel.0276-70-3016 Fax.0276-70-3008
 ■ 東日本機械センター 〒370-0718 群馬県邑楽郡明和町大輪505 Tel.0276-84-4447 Fax.0276-70-3008
 ■ 西日本機械センター 〒671-2515 兵庫県宍粟市山崎町五十波字山陰1033番25 Tel.0790-62-7276 Fax.0790-64-2031

● 東京支店 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1丁目1番12号 NKG東京ビル Tel.03-5365-2520 Fax.03-5365-2830

● 札幌支店 〒060-0033 北海道札幌市中央区北3条東8丁目8番地4 砂子ビル2F Tel.011-252-3670 Fax.011-252-3671

● 東北支店 〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井6丁目2番地12 Tel.022-287-5221 Fax.022-390-1263

● 盛岡営業所 〒025-0005 岩手 県花巻市田力第2地割36番地4 Tel.0198-29-4663 Fax.0198-29-4664

● 福島出張所 〒960-8106 福島県福島市宮町2番41号 福島セントラルハイツ205号 Tel.024-525-8871 Fax.024-525-8872

● 首都圏支店 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1丁目1番12号 NKG東京ビル Tel.03-5365-2900 Fax.03-5365-2830

● 横浜営業所 〒231-0033 神奈川県横浜市中区長者町3丁目8番13号 ルネ関内プラザ510号 Tel.045-633-3250 Fax.045-633-3251

● 北関東営業所 〒371-0857 群馬県前橋市高井町1丁目14番17号 Tel.027-252-0005 Fax.027-252-0877

● 中部支店 〒462-0819 愛知県名古屋市北区平安2丁目4番68号 井元ビル3F Tel.052-910-1881 Fax.052-917-3553

● 北陸支店 〒921-8001 石川県金沢市高島1丁目335-102 Tel.076-225-6370 Fax.076-225-6373

● 静岡営業所 〒420-0871 静岡県静岡市葵区昭府1丁目8番35号 ツキヂビル3F Tel.054-275-2311 Fax.054-253-8318

● 関西支店 〒530-0043 大阪府大阪市北区天満1丁目9番14号 NKGビル Tel.06-6351-0562 Fax.06-6351-7039

● 神戸営業所 〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通2丁目2番3号 サンエービル西館8F Tel.078-325-5675 Fax.078-325-5676

● 広島営業所 〒731-1222 広島県山県郡北広島町阿坂1401番1 Tel.0826-84-1243 Fax.0826-84-1250

● 九州支店 〒815-0075 福岡県福岡市南区長丘5丁目28番6号 Tel.092-552-2111 Fax.092-554-1133

● 鹿児島営業所 〒892-0838 鹿児島県鹿児島市新屋敷町16 鹿児島県住宅供給公社ビル304号 Tel.099-239-8007 Fax.099-239-8008

● 沖縄営業所 〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖1丁目32番1号 Tel.098-875-0092 Fax.098-874-2328

【関連子会社】

● JAFEC USA, Inc. 2025 Gateway Place, Suite 230, San Jose CA 95110 Tel.1+408-467-2240 Fax.1+408-453-6114
 (米国 カリフォルニア州サンノゼ) Mail.info@jafecusa.com

● 株式会社オーケーソイル 〒121-0053 東京都足立区佐野2丁目20番1号 Tel.03-3628-7155 Fax.03-3628-7188
 Mail.oks@oksoil.co.jp

